

玉翠会報

(第 30 号)

発行所 高松市二一
高松高等学校内
香川県立高松高等学校玉翠会
発行 大西 大介
責任者 大西 大介
印刷所 石田印刷(有)

玉翠会支援ネット構築

玉翠会会長 大西 大介



「歳々年々花相い似たり」と自然の営みの不思議さに感じ入ります。

されど人間の営みは毎年同じとは行かず、去年と比べても大きな事件が内外に起き、対応に苦慮されている会員も多いことと思います。何と言っても突然降って湧いた世界同時不況は強烈でした。最近になり漸く底を打った感じがしてきましたが、まだまだ油断のならないところです。新型インフルエンザも世界大流行を示すフェーズ6が宣言されましたが毒性が弱いの助かり、今のところ沈静化しています。冬を迎えた南半球で大流行をしているのを見て今年の冬が過ぎるまでは気が抜けません。

玉翠会の行事は皆様のご協力のお陰でほぼ滞りなく行われました。紙上を借りて会員各位に感謝申し上げます。ただ残念なことに総て無事とはいかず、旧年に前玉翠会会長 多田野久さまがお亡くなりになりました。氏は若い時に東京玉翠会を立ち上げ、以来玉翠会の運営に多大の貢献をされ平成十年から同十八年まで会長をされました。副会長としてお仕

えしたのですが、創立百十周年式典と春の甲子園出場に際してのリハーシップと細やかな気配りは特に印象に残るものでした。ご冥福をお祈りします。

各支部の活動も年々活発になり、支部総会へ参加するのが楽しみなのですが、それぞれ運営には頭を痛めていられるようにも見受けられます。共通の課題は若い会員の参加が少ないことですが、これは本部の活動でも同じで抜本的な対策を講じないと将来に不安を残すことになりかねません。会費納入から見た玉翠会の会員構成は五十代から七十代前半が中心で、この構成は将来とも変わらないでしょうが、比率を離れ絶対数で見ますと団塊の世代とその前後が支えているのが現状です。これから少子高齢社会が進み、団塊世代が後期高齢者になる頃には玉翠会も会員数減少の問題が顕在化するでしょう。一方、若い人たちが個を好み、大きな集団に属しながらない傾向が顕著になっていきます。特に上下関係がある集団を嫌い、水平的な少数の仲間を好むように見られます。この傾向も玉翠会を維持するには大きな障害となります。どうやって若い会員に参画して貰うかを工夫しないと先行き心配となります。大変大きな課題なのですが、世はIT社会ですので先ずこれの利用を考えます。具体的には今回立ち上げる玉翠会支援ネットワーク委員会の研究に任せますが、本部、各支部間のネットワークを整備し誰でも手軽にアクセスでき、玉翠会活動の情報を多くの会員が共有できるようにする。各卒業年次が固有に持つ情報を共有できるようにし、水平関係を上下関係に広げる。通信費の削減をする。紙ベースのコミュニケー

ションを電子化する。名簿関係を電子化する。以上のようなことなどが出来れば会員補足率が上がると共に経費の節減にもなるものと思います。玉翠会の構成は県女、高中から現在に至るまでの長い世代に亘っていますので、一気に本計画を進めることは無



あいさつ

高松高等学校長 土居 直 敬

玉翠会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素から、本校の教育活動の充実のために温かいご理解、ご支援を賜っておりますことに対しまして厚くお礼申し上げます。

高松高校の図書館には、「先輩著作コーナー」と名づけられた書架の一角があります。先輩方が執筆された書物を集めたその書架には、ご寄贈いただいたものなどを含めて、現在、百二十名の方々の著作、およそ五百冊が並んでおります。これまでに先輩講演会などで訪れていたいただいた先輩諸氏をはじめ卒業生の方々の著書が並ぶその一画は、在校生にとって、先輩方の活躍ぶりの一端を知ることのできる場所であり、将来のさまざまな夢を育む場所ともなっています。寺田寅彦に、「粟一粒秋三界を蔵しけり」という句があります。小さな粟一粒でさえ、成長するまでには自然界の様々な摂理が絡み合い、その跡がのこされていることを観てどううとした寅彦の自然観が表出されたものとして知られている句ですが、人間の成長に置き換えてみれば、青春時代の様々な夢や感動は、内面にとりわけ深く刻まれたものとして人生の軌跡にのこされていくものではないかと思えます。感受性のひととき豊富な高校時代に、様々な人やすぐれたものに出会うこと、手応えのある集中した時間を過ごすことは、かけがえのない体験と

理ですが、出来ることから始め、現方式と併用しつつ進めていくことが出来ればと思っています。会員の皆様のご協力をお願い致します。最後になりましたが会員各位のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

なるものであります。これからも、素晴らしい伝統や校風を大切にしながら、一人一人が自らの未来をたくましく切り拓く基礎となる力をしっかり培うような教育を目指してまいります。

さて、今年度、高松高校には、全日制九百二十一名、定時制三十六名、通信制三百十四名が在籍しております。全日制では、ここ六年間、入学定員は八学級三百二十名となっておりますが、今春の中学校卒業生数がさらに減少した影響を受けて、今年度の入学定員は一学級減となり、七学級二百八十名が入学いたしました。このように在籍者数は昨年度よりさらに減少しましたが、生徒達は活発に活動しており、六月初めの県総合体育大会では、準優勝のバスケットボール男子をはじめハンドボール男子、剣道男子、卓球男子が四国大会への出場を決めたほか、個人競技でも五つの部が四国大会への出場権を得るなど好成績を収めました。また、今春の大学入試でも、生徒達は持てる力をよく発揮してくれました。

今後とも、活力のある学校づくりに努めてまいりたいと考えておりますので、玉翠会の皆様の一層のご協力、ご支援をお願い申し上げますとともに、玉翠会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げて、ご挨拶いたします。

平成二十一年度 理事会・代議員会開催される

大西会長より、「玉翠会支援ネットワーク委員会」の立ち上げが提案された。各年代、各支部では結びつきができてきているが、それを縦軸横軸に例えればそれらを串刺しにして結びつきをこしらえ、より強くし、かつ若い層をどう取り込んでいくか、等玉翠会の現状を踏まえた今後の検討の必要を感じ、立ちあげることとしたい、と提案理由を挙げ、出席の理事・代議員からは賛成の拍手を得た。



平成二十一年度玉翠会理事事は六月十三日(土)午後一時より高松高校会議室にて四十名の出席にて開かれ、続いて代議員会は午後二時より五階玉翠会館ホールにて百六十名の出席をもって開かれた。

理事会に続いて開かれた代議員会においては、開会に先立ち、昨年度以降事務局にご逝去の連絡をいただいた、故多田野久顧問(高高一十五年卒)、岩井宏之理事(高五十三回卒)、尾形カズエ理事(晩翠十八年卒)他合わせて百三十七名の方々のご冥福をお祈りし、全員で静かに黙祷を捧げた。

佐々木教頭の司会により、まず大西会長より挨拶にて、多田野前会長の玉翠会へのご貢献について追悼の言葉があり、続いて前述の「玉翠会支援ネットワーク委員会」立ち上げの提案があった。

続いて十居校長より「皆様の物心両面のご支援のおかげで生徒の学習環境の充実はもちろん、進路意識を持たせるために諸先輩方の多大なご協力を得て、学校としても心強い。」とお礼の言葉があり、昨年度、学校助成金と甲子園教育基金にて、整えていただいた学校設備について紹介があった。皆様には今後ともご理解ご支援をよろしく願いたい、と挨拶が続いた。

議事は会則に従い大西会長の議長のもと進められた。事務局より平成二十年度事業報告及び会計収支決算報告が行われ、前田監事の監査報告の後、拍手

で承認された。続いて平成二十一年度事業計画案及び会計収支予算案の審議が行われ、会報を従来の昨年度会費納入者に加えて昭和三十年代卒の方全員への送付にすること(少しでも高松高校にお心を向けていただくため。来年は四十年代卒)、また前述の委員会に予算をつけていること、また、生徒への奨学金である創立百周年教育基金については、これまで十五名分の枠であったが、昨今の経済状況の悪化を考え、二十名分に増額した予算案など原案どおり承認された。

役員の変更については、事務局から、多田野久顧問(前会長)、前述の二人の理事のご逝去が報告され、五十三回岩井氏の後任は現在学年内で検討中である旨報告された。

最後に事務局より以下の事務連絡があった。

○「先輩講演会とGGAの案内」(本誌4p参照)

○「会報・会費の納入について」

今年度の会報(本誌)は、少しでも読みやすくするために手に取りやすい体裁としてみる。載せなければならぬ事も多いが、工夫もしてみるのではありません読んで読んでいただきたい。そして多くの会員の皆様からの会費の納入をお願いしたい。

○「名簿の編集・発行について」(本誌12p参照)

以上の連絡であった。

最後に形見重男副会長の閉会のことばで平成二十一年度玉翠会代議員会を終了した。



追悼

多田野 久

前玉翠会会長



昨年十一月十日、多田野久 前玉翠会会長がお亡くなりになった。享年七十七歳であられた。

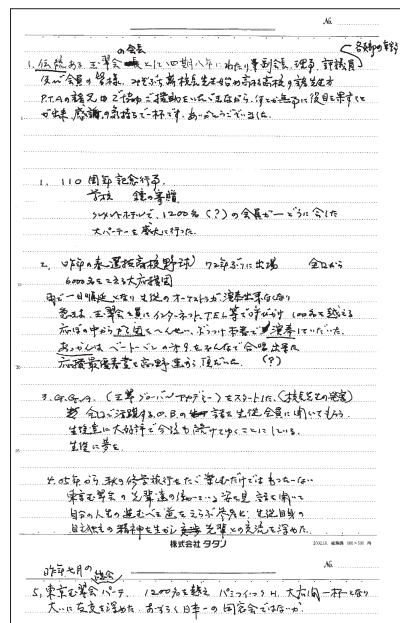
平成十年から十八年まで八年間玉翠会会長として私たちをお導きくださり、創立百十周年の数々の記念事業を実施、また平成十七年春には甲子園出場後援会会長として野球部の応援態勢づくりにご苦労された。センバツ閉会式にて高松高校は全出場校の応援の中で「最優秀応援団賞」をいただき、これもひとえに応援態勢づくりに努められた多田野氏のおかげである。

多田野久氏の玉翠会へのご貢献を、(株)タダノにてずっと久氏によりそってこられた秘書部長 箕田俊介氏(四十一卒)に伺い、次に記す。

* * *

昭和四十三年(一九六八年)頃より始まった東京高中学会に参加していたが、その頃の会員は全員が多田野久氏の先輩という状況であった。入学したときは高松中が卒業時は高松高校であったため、高中学会ではいつまで経っても先輩がでず、毎年一番若手として偉い先輩方のお世話をするが多かった。

そこで昭和五十年(一九七五年)高松高校のOBによる東京高中学会を設立し、自身が会長に推挙されることになる。そこでは入会してくる者全員が先輩



多田野久氏直筆の「玉翠会の思い出」メモ

であった。氏は得意とするリーダーシップを発揮して会を運営し、かつ大きくしていった。自社の社員などには有無を言わず出席させたが、当時五千円の会費が若手には高価であり、ないと言うとまとめて払ってくれたらしい。

昭和五十七年(一九八二年)逆に会員が減る一方であった東京高中学会と晩翠会東京支部を再び併合し、高中OBの平井健吉氏を会長として現在の東京玉翠会の基礎が固まった。

後年、高松へ戻り、玉翠会会長を受けし、一緒に運営に携わっていた副会長・理事・評議員・各支部の幹部会員の皆様・校長先生始め諸先生方のご協力のお陰で、八年間を無事努めることができた。氏が特に思い出としてよく語ったのは、百十周年記念事業、春の選抜高校野球七十二年振り出場、玉翠グローバルアカデミーのスタート、修学旅行での先輩との交流実施などであった。

多田野久氏は事情があつて大学を中退したこともあり、仕事以外の心の拠り所は母校である高松高校が一番大きなウェイトを占めていた。このことは氏に接した方たちが共通に感じたことだったと思われる。

十数年にわたり五回の手術と投薬治療で癌と戦ったが、最後まで母校を誇りに生きた人だった。

本部

(會長)	大西 大介
(副會長)	形見 重男
(副會長)	脇 和子
(副會長)	榎田 實
(副會長)	加藤 宏一郎
(副會長)	常谷 忠克
(顧問)	岡野 美代子
支部	
(東京玉翠會會長)	渡辺 修
(副會長)	三崎屋 義正
(副會長)	高田 トシ子
(副會長)	末包 昭彦
(副會長)	小島 豊子
(事務局)	岩崎 昭宏
(関西玉翠會會長)	樋口 順一
(副會長)	川西 艶子
(副會長)	斎藤 京子
(副會長)	岡 健
(副會長兼事務局)	田島 朋子
(顧問)	藤井 義弘
(顧問)	島田 清隆

(岡山玉翠会会長)	太田 武夫
(副会長)	坪金 諄子
(副会長)	河野 一郎
(事務局)	多田 讓治
(顧問)	辻 孝夫
(徳島玉翠会会長)	長尾 哲見
(副会長)	中村 芳正
(副会長)	牛川 務
(副会長)	香川 典子
(副会長兼事務局)	寺嶋 吉保
(顧問)	渡辺 恒明
(顧問)	渡辺 恵子
(東海玉翠会会長)	木下 栄一郎
(副会長)	大山 貞雄
(副会長)	山田 久雄
(事務局)	高橋 正樹



形見副会長



大西会長



榎田副会長



脇副会長



常谷副会長



加藤副会長

玉翠会役員

代議員名簿

高中部会

理事
丸山 修・加藤 達雄・岩部 隆・畠山 武史・
大竹 哲也・三宅 洋三・久米房之助
監事
菰渚 昭

晚翠部会

理事 伊藤 卓子・高木 敬子・喜岡美知子・谷本 文子・
大久保和子
監事 安達恵美子

高高部会

理事	佐藤	藤本	谷森	小川	中山	石橋	三木	土居	中山	森下	川東	監事
嘉子	勉	和彦	隆司	真知子	美國	讓治	千晶	聖史	孝俊	稲田	耕一	前田
太田	石原	森田	中村	野網	中	石田	龜井	稲田	道正	英章	亮三	道正
今澤	輝英	秀一	吉岡	省平	博史	謙作	正好	下地	崇弘	白井	治	大塚
暉子	章二	哲朗	輝男	谷年威	小島	中村	小早川	龍司	楠瀬	德永	大林	裕康
大塚	孝明	惠子	明	章夫	賢治	博司	康裕	正司				

高中部会

小西	行三	逸見正次郎	古川	静夫	小河	良平	旭
原上	明正	加島	隆明	安治	松島		
山田	平	木野	健	弘	泉川	孝平	
黒田	幹夫	正夫	渡邊	典雄	塩田	良弘	
谷川	昌男	壺井	正	清谷	圭一	増田	昭夫
	一典	河野	猛				

晚翠部会

筒井 薫・綾田 絹江・國宗 博子・杉山 清子
渡辺 綾子・鎌田 静子・香月 フミ・川西 美代
丸尾喜美子・中村美恵子・久米ヤス子・森永 栄
平井 貞子・井上 敬子・藤田 幸子・伊藤喜美子
笠井 愛榮・和泉 和・山田 恵子・遲澤シヅ子
滝口 清子・山形 美自・岩井美智子・川畔 信子
秋山多美子・荒木 聡子・上原美智子・加藤 鎮子
佐藤 恭子・神谷 順子・松田 郁子・西尾 信子
伊藤 悦子・矢野坂愛子・岡部 澄子・水野 綾子
石原 卿子・玉城 玲子

高高部会

中嶋	久富	香西	充	植塚	安得	小野	耕一
平井	二郎	河西	慈子	灘波	文子	辻	正司
作花	節子	竹内	昌子	太田	一彦	関谷	聡子
植田	京子	山西	守	森	惠洪	熊	善一郎
中村	敬子	真鍋千賀子	吉田	晃	塩田	正章	
松原	剛	秋山夫佐子	中障子不子	塩崎	勝一		
増田	勝彦	溝川	淳子	星川美智子	遠藤	忠知	
合田	武	森田	幸子	日野	弓槻	岡崎	進
上野	文夫	八代	紀子	横井	侑子	木村大三郎	
塚本	修	佐竹	睦子	加藤	祥子	高濱	孝
谷沢	一朗	笠井ミヤコ	谷本	朋子	千切谷多一郎		
鎌田	基志	岡田佳代子	飛田	久子	山内	康生	
三宅加代子	北岡	保之	松尾久美子	大橋	公子		
池西	敬子	梶村	正俊	松垣	剛	大和田昭邦	
尾崎	正澄	嶋	由利子	濱本貴美子	角田	朝則	
中村茉莉子	真屋	正明	花岡	通子	香西	幸夫	
高橋	博之	松山千恵子	平井	大資	福井	励子	
海部	泰夫	十河	喜代	川西	笑子	池田	紀治
上野	準一	堀家みどり	森	佐知子	小河	雄磨	
井上	哲	糸瀬	敏恵	川田佐知子	笹島	幹豊	
神原	賢治	穴吹	恵美	神内	幾代	鎌田順二郎	
岡子	泰	飯間	康代	長嶋	佳子	嶋村	昭
檀原万里子	池田	恵子	松山	哲也	岡	永二	

定通部会

[illegible]

松崎	善忠・玉木	勲	藤沢	康良	峰嶺	豐
河端	豊	野中	日勝	大麻	悦治・中山	敏男
住吉	榮司・松本	正義	賴富美偲子	佐々木允子		
松本	修・大見	昌弘	苔澤	昭一・田渕	薰	
川口	光子・塩田	政則・市原	武	香西	悦子	
和木智香子	長尾美智子	沖田フサエ	武田	芳美		
上田	昇・青木	和也・奥中	榮子	板東	真	
池内	一治・香西	辰也・山下	泰啓・井元	知保		
池田周一郎	山崎	愛				

平成 21 年度 玉翠会事業計画

月	日	曜	事業名	会場
5	18	月	玉翠会会長・副会長会	校長室
5	23	土	東海玉翠会第 3 回総会	名鉄グランドホテル
6	3	水	会計監査	5 階会議室
6	13	土	玉翠会理事会	1 階会議室
			玉翠会代議員会	玉翠ホール
			玉翠会教育基金運営委員会	校長室
			甲子園教育基金運営委員会	
6	22	月	玉翠会・PTA 合同歓送迎会	
7	8	水	第 1 回玉翠グローバルアカデミー(GGA) 高松地方裁判所 所長 佐藤 武彦氏 (38 年卒)	5 F 玉翠ホール
7	10	金	玉翠会報第 30 号発行	
7	11	土	東京玉翠会総会	ホテルパシフィック東京
9	5・6	土・日	第 59 回文化祭	高松高校
10	3	土	関西玉翠会総会	ホテルグランヴィア大阪
10	18	日	岡山玉翠会総会	アークホテル岡山
			先輩講演会 (岡山玉翠会前会長 辻孝夫氏 (30 年卒) 予定)	体育館
1	31	日	徳島玉翠会総会	
2			玉翠会会長・副会長会	校長室
3	5	金	卒業式	体育館

平成 20 年度 玉翠会事業報告

月	日	曜	事業名	会場
5	10	土	東海玉翠会第 2 回総会	名鉄グランドホテル
5	19	月	玉翠会会長・副会長会	校長室
5	21	水	会計監査	5 階会議室
6	14	土	玉翠会理事会	1 階会議室
			玉翠会代議員会	玉翠ホール
			玉翠会教育基金運営委員会	校長室
			甲子園教育基金運営委員会	
7	2	水	玉翠会・PTA 合同歓送迎会	
7	10	木	玉翠会報第 29 号発行	
7	12	土	東京玉翠会総会	ホテルパシフィック東京
9	6・7	土・日	第 58 回文化祭	高松高校
9	6	土	定通 60 周年記念式典及び祝賀会	ルポール讃岐
10	5	日	岡山玉翠会総会	アークホテル岡山
10	9	木	第 1 回玉翠グローバルアカデミー(GGA) 同志社大学赤ちゃん学研究センター教授 小西行郎氏 (41 年卒)	5 F 玉翠ホール
10	18	土	関西玉翠会総会	ホテル大阪ベイタワー
11	27	木	先輩講演会 (第 2 回 GGA) 明治大学先端数理科学インスティテュート所長 三村昌泰氏 (35 年卒)	体育館
1	10	土	徳島玉翠会総会	ホテルグランドパレス徳島
2	9	月	玉翠会会長・副会長会	校長室
3	6	金	卒業式	体育館

平成 21 年度 玉翠会会計収支予算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
玉翠会入会金	1,032,600
玉翠会会費	8,500,000
雑 収 入	64,016
前年度繰越金	24,560,384
合 計	34,157,000

〈支出の部〉

費 目	金 額
本部運営費	6,600,000
支部運営費	1,300,000
卒業生記念品料	120,000
学校助成金	2,000,000
備品充実費	2,000,000
教育基金へ繰入	2,376,000
退職積立金	200,000
予備費	500,000
次年度繰越金	19,061,000
合 計	34,157,000

平成 20 年度 玉翠会会計収支決算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
玉翠会入会金	1,018,800
玉翠会会費	8,393,300
会員名簿益金	4,052,500
雑 収 入	11,967
前年度繰越金	22,290,166
合 計	35,766,733

〈支出の部〉

費 目	金 額
本部運営費	5,737,373
支部運営費	1,209,640
卒業生記念品料	117,652
学校助成金	2,000,000
備品充実費	159,684
教育基金へ繰入	1,782,000
退職積立金	200,000
予備費	0
次年度繰越金	24,560,384
合 計	35,766,733

平成 21 年度 玉翠会学校助成金会計予算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
助 成 金	2,000,000
利 息	195
前年度繰越金	189,805
合 計	2,190,000

〈支出の部〉

費 目	金 額
体育館搬入設備保守点検 玉翠会館カーペット張替 体育館防球ネット修繕 行政財産の使用料等	2,100,000
雑 費	525
次年度繰越金	89,475
合 計	2,190,000

平成 20 年度 玉翠会学校助成金会計決算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
助 成 金	2,000,000
利 息	789
前年度繰越金	43,457
合 計	2,044,246

〈支出の部〉

費 目	金 額
体育館搬入設備保守点検 5F 和室壁及び障子・畳修繕 楽器購入及び修繕 卓球台購入 残高証明発行手数料	1,854,441
次年度繰越金	189,805
合 計	2,044,246

創立百周年記念玉翠会教育基金 平成 21 年度収支予算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
玉翠会会計より繰入金	2,376,000
預 金 利 息	65,570
雑 収 入	0
前年度繰越金	23,067,430
合 計	25,509,000

〈支出の部〉

費 目	金 額
奨 学 金	2,376,000
教育活動費	200,000
雑 費	525
予 備 費	50,000
次年度繰越金	22,882,475
合 計	25,509,000

創立百周年記念玉翠会教育基金 平成 20 年度収支決算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
玉翠会会計より繰入金	1,782,000
預 金 利 息	11,861
雑 収 入	252,188
前年度繰越金	22,922,026
合 計	24,968,075

〈支出の部〉

費 目	金 額
奨 学 金	1,767,600
教育活動費	133,045
予 備 費	0
次年度繰越金	23,067,430
合 計	24,968,075

甲子園出場記念教育基金

〈収入の部〉

費 目	金 額
雑 収 入	26,885
前年度繰越金	10,558,594
合 計	10,585,479

平成 21 年度収支予算書

〈支出の部〉

費 目	金 額
教育活動費	147,000
雑 費	1,000
次年度繰越金	10,437,479
合 計	10,585,479

甲子園出場記念教育基金

〈収入の部〉

費 目	金 額
雑 収 入	32,560
前年度繰越金	13,808,332
合 計	13,840,892

平成 20 年度収支決算書

〈支出の部〉

費 目	金 額
教育活動費	3,282,298
雑 費	0
次年度繰越金	10,558,594
合 計	13,840,892

リニューアル食堂!!

皆さんは在学中、食堂を利用したことがありますか？旧校舎なら、あの西南の建物の1Fに、運動場を見ながら食べていたあの頃の一シーンがありますね。

食堂は、去年の秋まで学校の経営だったのが、高食堂史上お初に業者経営となった。それまでも調理の方が誠実に調理、優しくご対応くださっていたのだが、コンビニの普及、経済状況の悪化等をうけ経営が思わしくなく、他県立高校もほとんどが業者を入れている現状も考え、業者にお願ひすることとした。PTAの代表、生徒、職員で業者三社から選定の会合を持ち、(株)一泉さんに入ってもらったこととした。

六月某日、取材。

二時間目終わりのチャイムの後、生徒が一気に飛び込んで来た。あれよあれよという間に長蛇の列。今日の定食は白身魚のタルタルソースかけに生野菜たっぷり、味噌汁、ごはん、漬け物。牛丼も人気だ。あと、うどん、ラーメン、カレー等定番もしっかり揃っている。スナック(ポテトフライ、唐揚げ、大判焼き、スイートポテト等)もホットにキープされている。職員向けか、小鉢も五十円/日替わりで充実している。パンもアイスも種類がいっぱいだ。休憩が二時間目後の二十五分間と三時間目後の三十分間と二回に分かれているので、生徒はどちらかで食べる。おばちゃん達は長蛇の列をてきぱきとしかも余裕をもってさばっている。冗談も飛び交う。ちなみに当筆が写真を撮ろうとすると、「うわあ〜！こまるう〜！写真見て、テレビ局からスカウトが来たらこまるう〜！」と嬉しそう。ナイスなおばちゃん達だ。

今回の食堂リニューアルを機に、昔の大先輩の頃のお昼ごはんはどのようなものだったか、約三十年前、五十年前、六十五年前にあたる、高中、県女、三十八年卒、五十四年卒のみなさんに寄稿インタビューさせていただいた。



高中(昭和10年代)

月に一度は“戦地の兵士を偲んで日の丸弁当”にしようと、定められたその日は全員が梅干弁当ということになっていた。

その日クラス全員が席に着いて弁当を食べていると、補導の先生が教室に入って来て、メモ用紙を片手に弁当を調べに机間を巡って来た。私の横に来ると立ち止まった。「これ何？」と覗かれた私のおかずはおからと菜っ葉の煮付けであった。「おからです。」と答えると、先生はちょっと覗いてそのまま通り過ぎて行った。梅干しでなければならぬというのではなかったのだ。当時私は母に梅干し弁当のことは言っていなかった。

そのころ卵は貴重品で、卵料理はご馳走であった。食べる機会は少なかった。なお梅干はよく弁当に入れられていたので、弁当箱のアルミニウムのふたは中央部が梅の酸で白っぽく腐蝕されていた。

昼食の時は学級担任の先生が教室に来て、生徒と一緒に食べることが多かった。ある日先生は弁当を持たないで来て、教壇の上で座って生徒が食べるのをじっと見守っていた。生徒がいるんな食べ方をしているのを見比べていたのであろう。食後みんなに「〇〇はご飯を片方からきちんと片付けながら食べている。△△は……」と言ってから教室を出て行った。

昼食時のお茶は、やかんではなく手桶に入っていた。四時間目が終わると当番が小使室からお茶の入った手桶を二つ教室に運んできた。小さな杓が入っており、その手桶が机間の床上を前から(後から)順に送られてくると、杓ですくって弁当の蓋に注いで次は次の者へ送った。学校から帰るとき、小使室の横を通ると、この手桶が行儀よく棚に並んでいるのが目に入った。

夏の部活の後など、よくこの手桶を借りてきて、水に買って来た氷を入れ、氷水として皆で週し飲みをしたものである。

当時生徒は飲食店や喫茶店に入内することを禁止されており、またパンを売る店も市内に二軒程と少なくそれも食パンとアンパン位しか置いてなく、パンを弁当にすることはまず無かったと思う。

そこで弁当は四時間限で全員一斉にとるものと思っていた。戦後、別の学校に入ったとき、早弁する者がおり驚いたものである。

昭和36年ご卒業の春風堂の千切谷先輩にお話をうかがいに行ってきました。「そうやな〜(目を細めながら)、僕らが高高校のころと言えば戦争から15年たった高度成長期の入り口やからちょうど東京タワーができた2〜3年後(=映画の『三日月の夕日』の後)で、今と比べたら貧しかったけれど、米ならなんとか腹いっぱい食べられた時代やった。」

弁当箱は黄色がかったアルミの深さが広辞苑くらい(少し大げさでは?)の『ドカ弁』でメシを一杯詰め込んだ日の丸弁当で卵焼きと魚肉ソーセージがついていたらしいよ。その頃はチャーシューなんかは贅沢品で、上につくとんはナルトくらいやった。(なにせ15円ですから。)アベック(死語です)の奴は、あずまやなんかあったで、35円のうどん食べに……。よお値段覚えとるやろ。(身に覚えがあるんですね。)

運動部はドカ弁2個持ってきて午前と午後を食べたり(5合×2=1升ですか?)、……そやそや、女の子はサンドイッチなんかもってきとったで。でも、弁当の中身もみんなだいたいおなじもんばかりで、中流意識で横並びで、ギスギスせんてえ時代やったで。

まあの、なんせ、授業中に教科書立てて早弁しとった思い出がないわのお。え?、どのセンセの授業が、弁当食べやすかったか? あほ、そんな覚えとつても言えるわけないやろ。」(笑)

県女

第2次世界大戦の勃発は昭和16年12月8日である。17年、18年と年を追う毎にほとんどの物資が配給制度になり、食料事情も厳しくなってきた。しかし生徒たちのお弁当事情がそれほど逼迫していた訳ではない。開戦の日に因んだ八のつく日のお弁当が副食一切なしの『日の丸弁当』と定められたのは、ひとえに戦地の兵隊のご苦労を偲び、銃後の戦意を高揚するためであったのだらう。日の丸弁当の日は先生方と全校生徒が校舎の屋上に集まり、生徒は学年学級別に南を向いて整然と並び、コンクリートの床に腰を下ろすと頭上は見渡す限りの青空である。これを『日輪食堂』と名付けていたが、確かに自然の陽光の下で食べるお弁当はたとえ梅干しだけでもあっても悪くはなかった。ただ問題なのは一口50回を黙々と咀嚼しなければならない規則であった。対面の先生が10分置きにカーンと鐘をならすのに合わせて加減しながら30分かけてゆっくりと食べる。これは若い私たちにとってはなかなかの苦行である。今でも同級生が寄ると時々話題にのぼる。なかには最初の十分で大方食べてしまっ、あとは一粒二粒を箸の先で拾っては咀嚼の真似事をしていた人もあったとか。ただ噛みしめれば噛みしめるほど「なるほどこれこそが澱粉質の本質か!」と思に至る一瞬もあったような気がする。何にしても戦時下の日の丸弁当は、『日輪食堂』という素敵な名称と共に忘れられない思い出である。

昭和54年卒業の教諭UとS社長の会話

U「私らの高時代というたら北の湖や輪島の時代で王選手がホームラン世界記録のころやったよな。今なら『よき昭和の時代』としてよくテレビで紹介されとるで。」

S「あとピンクレディーとかの。う〜おんてっど〜。」

U「ヤッターマン」の第一作とか『宇宙戦艦ヤマト』とか」

S「キャンディーズ解散。あつ、本当に私たちは幸せでした〜。スーちゃん〜ん。(号泣)」

U「……。私らのころのお弁当箱はもう銀色の薄手のやったわの。女の子が『少食』を気にし出したころ。おかずもパッキン付きのアルミの別箱で『マルシンハンバーグ』や『ルーちゃん餃子』や竹輪のキュウリ詰め、ふりかけは『旅行の友』で。」

S「おお、さすが家庭科教師。そやけど平気で製品名いれてええんか?」

U「私ら女子(じょし)は、キムラヤのパン(デニッシュ系130円)や常盤街のダイエーの焼きたてパンの豆パン(90円)を行きしなに買っていきよった。」

S「さすが高女子。『帰りに買い食いしよった』とは言わんのやね。俺ら男子は弁当は早よ食べて、学校の食堂の『うっす〜〜〜いカマボコ』ののつる100円のうどんと、名前だけ『カレー』とついた『肉なし玉ねぎ微量入り黄色い汁かけご飯』とかやっただ。高生ははっきり職員が食べれんようになって、しまいに立ち入り禁止になった『県庁の食堂』とか、薄暗〜い市民会館の地下食堂とか。」

U「やっぱり『あずまやのロゼ』とか、そのころ初めて新南町にできたばかりのマクドナルドのシェイクとか。喫茶店の『mon』とか。」

S「こら、現役教師。高校生が入ってもよかったんか?そーゆーとこ。俺ら男子は『まよや』のかき氷や『ふみや』のラードお好み焼や『ごん』のうまいぶんや……。まてよ、ひょっとして、買い食いにえらい『男女格差』があるやないか。やっから高女子はPー(警告音)。」

支部会だより

東京玉翠会



渡辺修会長あいさつ

東京玉翠会総会も昭和五十八年に第一回総会が開催されて以来、早いもので昨年第二十六回を数え、歴代の卒業生が四半世紀を超えて連綿と櫻を繋ぐ盛会へと発展して参りました。昨年は、母校高松高校、香川県、高松市、玉翠会本部・支部等より多数のご来賓を賜り、千名近い玉翠会会員が旧交を温め、懐かしい故郷の話に花を咲かせることが出来ました。改めましてこの場を借りて御礼申し上げます。

今年二十七回目の東京玉翠会総会テーマは「原点・あの日・あの時・あの場所です」。昭和六十年卒業の本年総会幹事団が、久しぶりに同級生と再会し皆で総会準備に取り掛かる過程で、同級生同士の繋がり「の「原点」たる母校高松高校の存在を改めて



岡山玉翠会

昨年まで二十年の間本会をまとめて頂きました辻孝夫会長が退任され、名誉会長になられました。これまでのご尽力に感謝しつつ報告いたします。後任には太田武夫(三十二卒)こと私が指名され、副会長は、坪金淳子(三十卒)、河野一郎(三十四卒)、両氏、事務局担当は多田譲二(四十四卒)、片山美穂(四十四卒)両氏ですの

でよろしく願っています。私事になりますが、昨年までの四年間、私は岡山市から高松市へ通勤致しておりました。マリンライナーには双方方向に通う勤め人や学生が少なくなく、岡山・香川両県は本場に一衣帯水というのが実感されまし

て想い出し、懐かしさを込めて選んだテーマです。更に本年は、母校高松高校の全面的な協力を頂き、玉翠会館に保存されている県女・高中・高松高校の歴代制服を玉翠会会員が着てステージで披露するという特別企画もご用意致しました。こうした催しを通じて単に同級生同士の繋がりだけでなく、八十学年に亘る東京玉翠会員が世代を越えて交流を持つことが出来るということは、とても素晴らしいことだと思います。なお、東京玉翠会では総会以外にも、「ゴルフ同好会」「囲碁同好会」「菊池寛杯争奪麻雀愛好会」等々多くの同好会組織があり、こちらでも世代を越えた交流が既に盛んに行われております。詳しい活動内容は東京玉翠会のホームページ(<http://www.gyokusui.com>)でも紹介されておりますので、ご覧になっていただけたらと思います。



昨年の東京玉翠会総会

文末年ら、玉翠会会員皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。幹事団代表 三木重昌(昭和六十年卒)

た。電車の窓から見える瀬戸内海の島々は季節や時間によって趣を変えて、さすが我が国で最初に指定された国立公園だと実感出来ます。また有名な「樽流し伝説」で決められたという県境の島々が、ほとんど岡山県のすぐ前に迫るのを見ると、両県はつくづく一体だと思えます。

岡山玉翠会では約三百五十人の会員ですが、会員は仕事の関係で両県をつなぐ仕事をしている銀行、メディア系などの会社員、教員や医療系の方々が少なくありません。特に医師は、かつて岡山に歴史の古い岡山医大(現岡山大学医学部)があった関係で多いのが特徴です。今年も五人の学生が入学し、過日歓迎会が開かれました。三十四人の参加者があり、半数は大学関連病院で大いに活躍中の人達でした。この会は玉藻会とよばれ分子医科学の二宮善文教授

関西玉翠会

「咲かそう! 青春の花」そして「帰ろう! あのと、あの人と」へ

あの場所に、あの人と」へ

関西玉翠会への日頃からのご支援、ご高配、心から御礼申し上げます。

関西地区は、五月に新型インフルエンザに見舞われるなど今年度も多難な船出となりましたが、もとより阪神大震災をはじめさまざまな労苦を乗り越え、関西地区在住OB、OGの方々はみなさん、高中、県女、高女の頃からの熱い思いを胸に心豊かにお過ごしのことと思います。

平成二十年度の総会は「咲かそう、青春の花」をテーマに十月十八日、大西玉翠会会長、土居校長など多数の来賓をはじめ三百人近くの方々のご出席をうけ大阪弁天町ホテル大阪ベイタワーで盛大に開催されました。当日は、来賓あいさつやゲーム、ご当地クイズ、応援団をまじえた校歌、応援歌の斉唱などで盛り上がりしました。

(四十九卒)が会長です。

岡山玉翠会では毎年秋季に総会を開いています(今年は十月十八日を予定)。参加者は約五十人とごちんまりとした会ですが、同窓会役員、学校関係者、それに同窓として知事さんもお出席頂いて、和気あいあい楽しい集まりですので、皆様にはお気軽にご参加頂きたいと思っております。

岡山香川県人会は香川県の出身者でつくる団体で、多士済々の方々に参加していて、年一回の総会や旅行、娯楽などのプログラムで親睦を深めておりますが、現在山下一盛弁護士(三十三卒)が会長を務めておられ、玉翠会会員も色々な世話役として参加しております。

以上のように同郷、同窓の者が、日常での交流も盛んなネットワークを作っている様子を報告致しました。



平成二十一年度の総会は十月三日土曜日の午後二時から大阪駅の上のグランヴィア大阪で「帰ろう! あのと、あの人と」の場所に、あの人と」をテーマに開催します。当時の思い出の音楽が流れ、みんなで歌っていただく中、出席された方々に、一度、高中、県女、高女で過ごした頃の

自分に戻ってあの人(もしかすると意中の人ではないかもしれませんが、今も心は若き男女の方々)とともに心温まるひと時を過ごしていただきたいと思ひ、準備を進めています。

きっとその話題は、忘れがたき恩師との出会いと叱られた思い出、心ときめくフォークダンス(卒業生によつてはスクエアダンス)、ほろ苦き文学青年としての思い出、楽しくもあり苦しくもあったクラブ活動、渡し損ねたラブレター、帰り道での男女の語らいや、とどのつまりの失恋など、人それぞれでありつつも感慨深いものであると思います。そういった青春の一コマを蘇らせ、出席された方々一人ひとりにとっては、今、この時こそが本当の青春であることにきつと気がつく、そんな素敵な総会にできればと思っています。可能な方はぜひご出席くだされば幸いです。

今、関西玉翠会では総会の出席者の年代に偏りがあり、来年度以降の総会をどうしていくかについても相談しています。必ずや、毎年、一人でも多く気軽に参加していただける総会を開いていけるよう、みんなで知恵を出していきたいと思ひますので、今後ともご支援のほど宜しくお願いします。

五十二年卒代表幹事 森 泰蔵

徳島玉翠会

徳島玉翠会の近況報告

徳島玉翠会は本年度より長尾哲見新会長（昭四十四一年卒）のもとで新しいスタートをきりました。今後ともよろしくお願いします。

徳島は、大きな吉野川と急峻な四国山脈、風波の強い太平洋があり、風土は香川よりも変化に富んでいます。瀬戸内海や太平洋の魚が食べられます。冷麦のような太い「半田素麺」や日本ハム発祥の地ゆえの豚骨系の「徳島ラーメン」があり、アウトドアも川下り（カヌーやラフティング）、サーフボード、スキューバ、山歩き、パラグライダー、スケボー、スキーなど幅広く遊べます。四国霊場の発心の一番霊山寺から二十三番薬王寺があり、「お接待」文化の中を多くの方が歩いています。徳島動物園は郊外に移転して充実しました。私も徳島に住んでみて驚きでした。高松からも東京からも一時間ですので、遊びに来てください。



第 15 回総会にて（平成 21 年 1 月 10 日）

〈徳島玉翠会の第十五回総会報告〉

平成二十一年一月十日（土）に、ご来賓十二名、会員三十九名の出席を得て開催致しました。ご来賓として高松高校から土居校長、柴田教頭、渡辺教諭、本部から大西会長、形見副会長、常谷副会長、関西玉翠会の樋口会長、岡山玉翠会の太田会長、東海玉翠会の高橋事務局長に来ていただきました。



特別講演会（高城修三氏）

徳島玉翠会では毎年総会の前に特別講演会を開催しており、今回は高城修三（たかしゅうぞう）氏による「連歌のたのしみ」についてご講演いただきました。この講演会＋総会＋懇親会の形式は徳島玉翠会特有で好評です。

今総会で第四代会長の太田房雄氏（昭三十八年卒）が平成二十一年三月をもって退かれました。太田氏は四年間で、総会の企画・開催、会誌の編集・発行、ホームページの構築、玉翠会本部ならびに支部との交流など現在の新しい徳島玉翠会の発展に寄与されました。

徳島では、総会参加者全員に近況報告を話してもらいます。地方の小規模同窓会の良さです。徳島在住の方には、是非お声かけください。

今年度総会は一月初三十一日（日）です。
徳島玉翠会事務局長 寺嶋吉保（昭四十七年卒）



参加者全員による近況報告

東海玉翠会

第三回総会だより

玉翠会会員の皆様には、ますますご壮健にて活躍のこととお慶び申し上げます。

東海玉翠会は平成二十一年五月二十三日（土）に名鉄グランドホテルで第三回総会を開催しました。新型インフルエンザの感染拡大が連日報道される中で開催となったため、参加者が予定通り集まれるのかと心配しましたが、例年とほぼ同数の四十四名が参加し、笑いの絶えない和やかな総会となりました。来賓として、佐々木教頭・大西玉翠会会長並びに関西・岡山・徳島各玉翠会の会長の皆様にもご出席いただき、現役高生生の状況や高松市の雰囲気、各支部の活動状況などを楽しく聞かせていただきました。

懇親会では、関西支部にご提供いただいた高松高校にちなんだクイズを行い、賞品をかけて参加者一同大いに盛り上がりました。年一回の集まりですが、会を重ねるごとに会員の皆さんの繋がりが深まっていることを実感致しました。また、今回より欠席者の方にも事務経費の負担を会費でお願いしたところ、七十名近い方にご賛同いただき、出席者を含めて百十名を超える方々が東海玉翠会に期待を寄せられていることがわかりました。今後はこの百十名余の方々を基盤として、粘り強く活動を継続して行きたいと考えております。玉翠会の皆様も、将来東海三県に転動されるような場合には、是非東海玉翠会にご参加頂きますよう、お願い申し上げます。

ところで、東海地区の中心である名古屋は、高松出身者にとって昔から馴染みの薄いところだと思いますので、ここでちょっと名古屋の特徴をご紹介します。よく「ケンミンショー」とかで取りあげられる話題の中で、地域の特徴が一番表れる

食べ物として『お雑煮』があると思います。名古屋のお雑煮は、日本で一番質素ともいわれるようですが、かつおダシにもち菜と切り餅をいれて、最後にかつお節をかけただけのシンプルなもの。初めて名古屋で正月を迎えてお雑煮を食べたときは、びっくりして飽りもちが懐かしく思いました。名古屋はお城に金のシャチホコをのせるのに、お雑煮は何故質素？という疑問に対しては諸説があるようです。「江戸時代、尾張藩主の徳川宗春が時の将軍吉宗に豪華な食事をとがめられたため」とか「具材が少ないのは、名（菜）をあげる、をかけている」とか…。いずれにしても、質素節約するからこそ、いざという時に派手に振る舞えるということだそうで、名古屋の婚礼はそういう地域性が表れているということなのです。

現在の名古屋は未曾有の景気悪化の影響により、一時期の活気は影を潜めておりますが、堅実さでは日本一の土地柄ですので、いち早く元気を取り戻してくるものと思います。会員の皆様も是非一度名古屋に立ち寄ってみては如何でしょうか。

最後になりましたが、玉翠会の今後ますますのご発展と、会員皆様のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

東海玉翠会 高橋正樹（昭和五十二年卒）



東海玉翠会第3回総会 2009年5月23日（土）

定時制だより

ご挨拶

教頭 清 谷 守 之

平成二十一年度は、四月七日に新入生九名を迎え、編入生と合わせて生徒三十八名(男十七名、女子十九名)、職員七名でスタートしました。

今年度の新入生から順次四年かけて単位制に移行してまいります。今まで以上に授業一つひとつが大切になってきますので、一人ひとりの個性や実態を尊重しながら、授業では、内容を精選し、基礎・基本を大切に「わかりやすい授業」に徹したいと考えています。また、学校行事にも工夫や改善を加えて学校生活の活性化を図っていきます。

放課後、職員室では、生徒たちのにぎやかな話し声が絶えません。今後とも生徒と教師のふれあいの場を多くし、一人ひとりの生徒を大切にしたい教育を目指したいと思っています。

以下、昨年度の学校行事を紹介します。

入学式 — 緊張の中にも笑顔 —

平成二十年四月八日、七名の新入生が期待に胸を膨らませて、校門をくぐりました。入学式に臨んだ感想を、それぞれに聞かせてもらったので紹介します。「中学の入学式と同じくらいドキドキした。」「代表で宣誓の言葉を読むとき、すごく緊張しました。」「これから四年間頑張ろうという気になった。」「どんな人があるのか楽しみでした。緊張もした。」「頑張るんだ!」と気持ちが高まった。」「緊張したけど期待でわくわくした。」「皆さん緊張していたようだけど、」「私たち先輩が優しいから、大丈夫だよ。」「とのこと。



一年生、宿泊研修 — 青葉若葉の中で —

参加できる人が五名の少ない人数でしたが、天候に恵まれ例年通り実施できました。生徒同士いろいろな活動を一緒にすることで親近感が急に高まったようです。

「久しぶりに屋島の自然にふれることができて楽しかった。クラスメートとの仲も深めることができたと思う。寝るときが楽しかった。」(生徒の感想より)

県定通総体・県軟式野球大会

— バド女子シングルス準優勝 —



五月十八日、野球部十一名が、国分寺の橘の丘総合グラウンドで丸高(定)と対戦。内容的には善戦しましたが、結果は0対10。悔し涙をこらえながら帰って来ました。六月十二日、男子バスケット部

九名が、丸高(通)と二回戦の熱戦を展開しました。こちらチーム丸一丸へととになりながら、最後まであきらめませんでした。そして男女バドミントン部八名は、優勝の一語を目標に全力を出し切り、四年生の井元知保さんがシングルスで準優勝に輝き、全国への切符を手に入れました。また男子も四年の山下君・三年の瀬戸川君がシングルスでそれぞれベスト十六・ベスト八に入りました。選手の一言を紹介します。

「通常の三倍くらいの実力をだせた。」「二回目の大会でも緊張した。来年はもっと練習して絶対勝つ!」「四年連続で出場してきた総体も今年で最後となりましたが、練習の成果が出せたと思う。」「初めて試合に出て、なんとか一勝できてよかった。最後まで諦めなかった。」「負けたことは悔しいけど、それ以上に自分の実力にむかっていた。」「四年間定通大会に出て自分の力が向上したし、ここまでやってきてほんとに良かったです。」「今年の出場は三チームで二回勝てば優勝であったが、一戦目で負けてしまった。悔しい。疲れた。チームメートの皆を指導して下さった教頭先生に感謝したい。」「皆で汗を流しながらいい練習ができたのでよかったです。」「相手チームに一人強いのがいてマークしたが、勝てなかった。」

負けながらも、それぞれに達成感のあることばですネ。また、応援席からは、「バスケもバドミントンも皆頑張っていた。バスケはチームワークがよかった。」「負けてしまったけど見ていてとてもはらはらする試合で面白かった。」「凄い試合だった。みんなよく動いていた。」といった感想が寄せられました。

第五十八回高文化祭開催

— 定時制六十周年記念展 —

夏休み明け早々、九月六日、七日の両日文化祭を開催しました。定時制は学年ごとに準備を分担して、展示に工夫を凝らしました。たくさんの人達が見に来てくださり、とてもにぎやかな一般公開になりました。

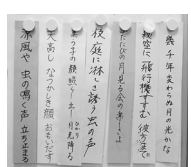
(一年) 装飾を担当しました。準備する中高校生らしい気分を味わい、作業は皆で協力できて良い勉強になりました。

(二年) 一年間の行事紹介をしました。作業は一人組で、全ての月間に個性が光る紹介になったと思います。

(三年) 作品の展示を担当しました。陳列の工夫や展示の配置換えで、作品のイメージがずいぶん違うことがわかりました。

(四年) ゲームコーナーを設け、中高生や子供達に楽しんでもらうことにしました。結構盛況で、自分たちも満足しました。

観月句会催す …… 名月や ……



十月三日、恒例の句会を開きました。月齢が浅く、輝く満月を見ながらとはいきませんでした。したが、参加者全員で作句に頭をひねりました。玉翠会館和室に陣取り、お抹茶とお菓子をいた

だきながら作品を紹介しあって、楽しいひとときになりました。この観月句会をずっと続けていきたいものです。ほんの一部ですが作品を紹介します。

- ・涼風や虫の鳴く声立ち止まる (四年男)
- ・幾千年変わらぬ月の光かな (四年女)
- ・ふたたびの月みる会の楽しさよ (四年女)
- ・集う子の顔照らしだし月光降る (詠み人知らず)

生徒生活体験発表香川県大会開かる



十月十一日、高松商工会議所大ホールに県下定時制通信制高校で学ぶ生徒の各校代表が集い、表記大会が開かれました。本校からは四年生の山下泰啓さんが【乗りこえる勇氣】と題して大会に参加しました。成人後、高校生活をスタートした山下さんは、自らの体験を今後の生きる糧としていく決意を堂々と発表し、会場をうならせました。

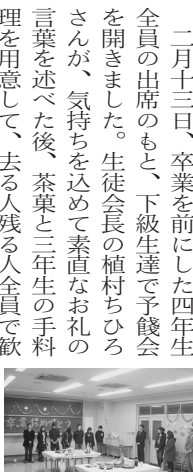
結果は全国大会にあと一步、昨年に続き優秀賞に輝きました。おめでとうございます。

遠足、鷺羽山ハイランドへ



十月三十一日、二学期最後の行事遠足が実施されました。参加できない生徒もいて、先生方と合わせて三十四名が参加。一日中曇り空でしたが、遊び・会話・食事を普段とは違った雰囲気の中で堪能できました。行き帰りのバスも、学年を超えて盛り上がり、忘れられない一日になりました。

予餞会四年生に感謝



二月十三日、卒業を前にした四年生全員の出席のもと、下級生達で予餞会を開きました。生徒会長の植村ちひろさんが、気持ちを込めて素直なお礼の言葉を述べた後、茶菓と三年生の手料理を用意して、去る人残る人全員で歓談しました。懐かしの場面もあれこれ話題に出ましたが、最後に、別れを惜しみ合い、記念撮影をしました。

卒業式挙行 — 旅立ち —

『私の瞳がめれているのは、涙なんかじゃないわ泣いたりしない。』三月六日、男子五名・女子五名の四年生が卒業を迎えました。在学中が楽しかった分だけ、それぞれに寂しさを抱えながら、十名が卒業していききました。気が向けばまた、いつでもお立ち寄り下さい。ご健闘をお祈りします。

通信制だより

ご挨拶

教頭 高 井 信 一

昨年九月六日、ルポール讃岐において、本校定時制・通信制開設六十周年記念式典及び祝賀会が盛大に開催されました。

当日は、玉翠会の大西会長を始め、通信制では福家前同窓会長を含めて四十四名の会員と旧職員が参加し、大いに盛り上がりました。



平成二十一年度は、新入生五十四名を迎え、三百十四名でスタートしました。

生徒が、落ち着いた環境の中で、仕事と学習を両立させ、目標を持って学校生活が送れるような教育活動に取り組んでいます。

以下、昨年度からの学校行事を紹介します。

○卒業式 三月六日（平成二十年度）

午前九時四十五分より本校体育館において、全・定・通信制の卒業証書授与式が厳かに行われました。平成二十年度卒業生総数は三六三名、通信制課程の卒業生は三十三名。



通信制の卒業生を代表して古市和揚さんに卒業証書が授与されました。記念撮影の後、二階AVセンターで表彰状授与式が行われ、十二名の方が各賞を受賞しました。

○入学式 四月十二日（平成二十一年度）

桜も満開のなか平成二十一年度入学式が行われ、五十四名の新入生を迎えました。校長先生から「高松高校の伝統である旧制高松中学校の「至誠一貫」と県立高松高等学校の「雪持ち笹」の精神を受け継ぎ、名門校の生徒であるという自覚と誇りを胸に人から尊敬される人間になるよう努力精進してください。」という激励の言葉をいただきました。



から尊敬される人間になるよう努力精進してください。」という激励の言葉をいただきました。

○新歓行事 五月二十四日（平成二十一年度）

新歓行事「つどい」は生徒会が中心となって企画し、通信制に新しく入ってきた仲間を歓迎する最初の学校行事です。体育館で、午前中はソフトバレーに汗を流



しました。午後は講演会と班別ミーティングを行いました。講演は岡山商科大学副学長の山口博幸教授を講師にお迎えし、「人はなぜ働くのか、就職について考える」の演題で行われました。

○全国定通総体 八月十六日～十八日（平成二十年度）

第四十三回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会が国立競技場で行われ、本校から四年生二名が二種目に出場しました。夏季開催では珍しい二十二度という気温と降雨の中、一〇〇mでは予選を二位で突破し準決勝に進出しました。一五〇mでは予選で先頭集団によくついていき県大会の自己記録を二十五秒以上縮める記録を出しました。



○合同文化祭 九月六日、七日（平成二十年度）



二日間にわたり文化祭が開催され、本校通信制は開設六十周年を記念して「高維真」の全体テーマのもと教室展示を行いました。八月から生徒会役員や文化祭実行委員などが中心となり準備に取り組みました。今年は研究発表の出品が多く、生徒会の現在深刻な

「環境問題」をテーマにした発表や、ねばり強く半年間の新聞の折り込み広告を分類した発表、六十周年に際して過去の通信制の写真や機関誌・文芸誌などの紹介等を行いました。

○生活体験発表会 九月十四日（平成二十年度）

玉翠ホールで第四十一回校内生活体験発表会が開催され、各学年二名の代表者から学校生活や人生についてなどのテーマで発表がありました。審査の結果、一位に音楽の夢をめざして通信制に入学した一年の中西嘉子さんが、二位にさまだまな人と出会い成長していく自分を語った四年の溝瀨瀬里菜さんがそれぞれ選ばれ、十月十一日に高松商工会議所で行われた定通県大会に一位の中西さんが、通信制四国大会（テニ）審査に二位の溝瀨さんが出場しました。溝瀨さんは、十一月十三日に行われた定通制全国大会に四国代表として出場し、厚生労働省職業能力開発局長賞を受賞しました。



○体育祭 九月二十八日（平成二十年度）



第三十四回体育祭が本校体育館で行われ、九十三名の生徒が参加して熱戦が繰り広げられました。午前中はパン食い競争やタイフーンなどに我を忘れて夢中になったり、午後はバドミントン・ソフトバレーに熱戦を展開するなど、家族の方や子供達も参加して大いに盛り上げてくれる通信制らしい光景が見られました。

先輩講演会 第二回 GGA

「生き物の神秘」数学からの解明」

明治大学先端数理科学インスティテュート所長 三村 昌泰氏



二〇〇八年十一月二十七日第 回玉翠グロバルアカデミー、先輩講演会が体育館にて開催された。

テーマは「生き物の神秘」数学からの解明」で、ゲストスピーカーは明治大学先端数理科学インスティテュート所長の三村昌泰氏であった。

三村氏は昭和三十五年本校を卒業され、京都大学工学部数理工学科に進学、大学院に進み、工学博士号を取得された。また昭和五十二年にオックスフォード大学客員研究員になられ、その後は甲南大学理学部、広島大学理学部、東京大学大学院数理科学研究科、広島大学大学院理学研究科、明治大学理工学部といった数々の大学の教授を勤められ、現在明治大学先端数理科学インスティテュート所長として活躍されている。また、日本数学会理事、日本応用数理学会理事・副会長・会長等も歴任されている。

講演では、前半に数学は時代をこえて全世界に通用する学問であり、現代の科学技術を支えているということや二十一世紀は数理科学の時代になるなど、数学のこれからの重要性について話された。後半は

ヒトデ、ハチの巣、動物の模様などの自然に見られる美しい形を数学的に分析すること。また、アメーバからヒントを得てネットワークを効率化するといった、自然界と数学のつながりについて話された。最後に「勉強することとは楽しくなるということ。これはどんなことにもあてはまる」ということをおっしゃった。

講演終了後、校長室で行われたインタビューでは、自分の歩んできた人生や、学問に対する考え方をなどを話していただいた。「それぞれの学問の分野はバラバラにやっているように見えるが、法則がある。それを数学的に解明することによって、たとえば経済とかに活用できる」という考え方はとても参考になった。

今回の三村氏の話で、私たちは勉強することの楽しさを知った気がした。
昨年度の GGA としては、十月九日に、同志社大学赤ちゃん学術研究センター教授、日本赤ちゃん学術理事長の小西行郎氏（本校昭和四十一年卒）による「赤ちゃん学とはーヒトの始まりから子供を観る」の講演があった。

(高松高校新聞より)

校友会成績

応援委員会

第90回全国高校野球選手権香川県大会 応援優秀賞
放送局委員会

第32回全国高等学校総合文化祭 出場
オーディオ部門 小島あかね

第25回香川高文連放送部発表会
朗読部門 二位 岩崎 優香

美術部

平成20年度全国総合文化祭
香川県代表作品 須田香苗 「I am filled with me」写真部

第32回全国高等学校総合文化祭
写真部門 文化連盟賞 二年 松浦 哲平

演劇部

香川県高等学校総合文化祭
優秀賞(二位)
創作脚本奨励賞

四国高等学校総合文化祭 優良賞
囲碁同好会

第32回全国高校囲碁選手権大会
県大会 男子団体戦優勝
女子個人戦優勝
全国大会 出場

将棋同好会

第31回香川県高校選手権将棋大会
優勝 村上 由樹

第32回全国高等学校総合文化祭将棋部門出場
村上 由樹

第25回香川県高等学校総合文化祭将棋大会
優勝 村上 由樹

第5回四国地区高等学校文化連盟将棋選手権大会
優勝 村上 由樹

第17回全国高等学校文化連盟将棋新人大会出場
村上 由樹

陸上部

国体最終予選会 少年B 100m 1位 野田 愛果
少年B 100m H 1位 野田 愛果

新人戦 110m H 2位 寒川 崇生

四国高等学校選手権大会 円盤投 6位 久保 伸貴

全国高等学校総合体育大会 円盤投 出場 久保 伸貴

四国選手権大会 4×100m R 2位
松下優衣・川田梨紗・末澤志乃・野田愛果

香川陸上競技カーニバル大会
杉山晴香・野田愛果・松下優衣・大谷詩歩

松下優衣・多田野絵璃・川田梨紗・野田愛果
4×400m R 1位

水泳部
松下優衣・野田愛果・多田野絵璃・大谷詩歩

新人戦 100m 背泳ぎ 2位 佐藤瑠吏子

バスケットボール部男子
ベスト4

県総体 ウィンターカップ県予選 3位

新人戦 3位

バドミントン部男子

県総体 団体 ベスト4

四国総体 団体 ベスト4

柔道部
県総体 81kg級 2位 大前 知也
新人戦 81kg級 1位 西岡慎太郎

テニス部男子
団体 ベスト4

テニス部女子
団体 ベスト4

県総体
夏季テニス大会 団体 3位

新人戦 団体 3位

ヨット部
県総体 男子 FJ級デュエット競技 3位
女子 FJ級デュエット競技 3位

四国総体 男子 FJ級デュエット競技 3位
女子 FJ級デュエット競技 3位

全国総体 男子 FJ級デュエット競技 3位
女子 FJ級デュエット競技 3位

新人戦 男子 FJ級デュエット競技 3位
女子 FJ級デュエット競技 3位

フェンシング部
男子 シーホッパー級SR 2位 寒川・野村
女子 シーホッパー級SR 1位 中村 江

県総体 団体 男子 2位 女子 3位
個人 男子フルール 1位 十川 澄人
男子エペ 2位 小野 兼一

新人戦 団体 男子 2位 女子 3位

野球部
春季香川県大会 1回戦 高松 4-3 観音寺中央
2回戦 高松 5-2 坂出工業
3回戦 高松 3-11 香川西

第90回全国高等学校野球選手権香川県大会
2回戦 高松 6-3 香川中央
3回戦 高松 9-13 高松中央

秋季香川県大会 1回戦 高松 0-11 尽誠学園

司道同好会
新人戦 男子団体 準優勝 女子団体 準優勝

平成 21 年度 教職員人事異動

【退 職】

世史 教諭 祖田 邦雄 本校で再任用
英語 講師 大西 泰斗

【転 出】

保体 教頭 大熊 正和 香川西部養護学校教頭へ
物理 教諭 多田 幸雄 教育センター主任指導主事へ
国語 教諭 佐藤日登美 高松南高校へ
世史 教諭 真鍋 篤行 丸亀城西高校へ
保体 教諭 谷口 友一 高松工芸高校へ
数学 教諭 大西 研作 丸亀高校へ
世史 教諭 吾妻 美公 高松工芸高校へ
数学 講師 松岡 大我 高松養護学校へ
事務 主任 出村 憲一 高松養護学校へ

【転入・新任】

保体 教頭 高井 信一 保健体育課課長補佐から
数学 教諭 白井 邦俊 高松工芸高校から
数学 教諭 藤川 和重 琴平高校から
英語 教諭 吉川 正美 高松東高校から
英語 教諭 黒島 俊哉 教育センター主任指導主事から
国語 教諭 山本 美加 教育センター主任指導主事から
日史 教諭 飯尾佳津枝 土庄高校から
公民 教諭 武井 素子 香川中央高校から
地理 教諭 小松 芳智 高松工芸高校から
保体 講師 二宮 和敬
物理 講師 真鍋 和朗 高松南高校から
英語 講師 木村 仁美
事務 部長 坂井 美保 香川中部養護学校から

平成 21 年度 大学合格者数

1. 国・公・私立大別合格者数 (平成 21 年 4 月 6 日現在)

学 校 名	人数	学 校 名	人数	学 校 名	人数
北 海 道 大	3	首 都 大 東 京	2	明 治 学 院 大	2
東 北 大	2	横 浜 市 立 大	1	立 教 大	6
筑 波 大	7	岐 阜 薬 大	2	早 稲 田 大	51
千 葉 大	4	静 岡 県 立 大	1	中 京 大	1
お茶の水女子大	1	名 古 屋 市 大	1	南 山 大	1
電 気 通 信 大	1	滋 賀 県 立 大	1	藤田保健衛生大	2
東 京 大	19	京 都 府 立 大	2	京 都 女 子 大	7
東 京 外 大	2	大 阪 市 立 大	2	京 都 造 形 芸 大	1
東 京 学 芸 大	1	大 阪 府 立 大	5	京 都 精 華 大	1
東 京 工 業 大	5	兵 庫 県 立 大	2	京 都 薬 大	9
東 京 農 工 大	1	岡 山 県 立 大	1	同 志 社 大	78
一 橋 大	4	合 計	20	同 志 社 女 子 大	6
横 浜 国 大	6	自 治 医 大	2	立 命 館 大	85
静 岡 大	1	青 山 学 院 大	15	龍 谷 大	3
名 古 屋 大	2	学 習 院 大	2	大 阪 工 大	3
名 古 屋 工 大	1	国 立 音 大	1	大 阪 薬 大	5
京 都 大	17	慶 應 大	38	関 西 大	14
大 阪 大	25	国 際 基 督 教 大	4	近 畿 大	16
大 阪 教 育 大	1	駒 澤 大	1	関 西 学 院 大	42
神 戸 大	16	芝 浦 工 大	1	甲 南 大	2
奈 良 教 育 大	1	上 智 大	2	甲 南 女 子 大	1
奈 良 女 子 大	5	昭 和 大	1	神 戸 学 院 大	3
鳥 取 大	1	専 修 大	3	神 戸 女 子 大	1
岡 山 大	14	多 摩 大	1	神 戸 薬 大	4
広 島 大	12	多 摩 美 大	2	兵 庫 医 大	1
徳 島 大	11	中 央 大	35	就 実 大	1
香 川 大	21	津 田 塾 大	4	清 心 女 子 大	1
愛 媛 大	1	帝 京 大	2	徳 島 文 理 大	12
高 知 大	1	東 海 大	3	松 山 大	1
九 州 大	5	東 京 女 子 大	2	産 業 医 大	2
九 州 工 大	1	東 京 農 大	1	福 岡 大	1
熊 本 大	1	東 京 理 大	15	そ の 他	6
鹿 児 島 大	1	日 本 大	2	合 計	538
合 計	194	日 本 医 大	1	防 衛 医 科 大	2
		法 政 大	5	海 上 保 安 大 学 校	1
		武 蔵 野 美 大	5	そ の 他	1
		明 治 大	21	合 計	4

2. 国・公・私立大学学部別進学率 (%)

学部	文外語社会	法政治	経済商	理	工	農林水産	医歯	薬	生活科学	体育	芸術	教育	その他	合計
	21	13	15	3	20	5	7	5	2	1	2	6	1	100

玉翠会からの
図書館への寄付金、寄贈について

平成 20 年度、東京玉翠会より寄付金 150,000 円があり、下記の図書を購入致しました。

『朝日百科 世界の文学 全 13 巻』 111,510 円
『百年小説』 集英社 6,600 円
『展望 現代の詩歌 全 11 巻』 明治書院 30,800 円

玉翠関係寄贈図書

本田 章子氏 (昭和 33 年卒)
「天頂 Zenith 本田章子歌集」 1 部
福田 靖子氏 (昭和 33 年卒)
「食育入門 豊かな心と食事観の形成」 1 部
「そだててあそぼう 58 ゴマの絵本」 1 部
大政 恭子氏 (昭和 30 卒)
「平和の礎 海外引揚者が語り継ぐ労苦 18」 1 部
佐々木良一氏 (昭和 41 年卒)
「IT リスクの考え方」 1 部
脇 明子氏 (昭和 41 年卒)
「オタバリの少年探偵たち」 1 部
和田かず子氏 (昭和 38 年卒)
「クウェートの砂嵐」 1 部
細川 敏幸氏 (昭和 50 年卒)
「科学のこころ この世は案外おもしろい」 1 部

以上が 20 年度の寄贈図書
今年度 5 月末までに

上野 邦一氏 (昭和 37 年卒)
「大学的奈良ガイド こだわりの歩き方」 1 部
真部満智子氏 (昭和 38 年卒)
「新・日本現代詩文庫 59 水野ひかる詩集」 2 部

二十年度も 玉翠会の援助で 生徒の教育環境が、より充実しました

学校助成金より

●体育館鍛冶設備保守点検

(一五三、〇九〇円)

昨年、玉翠会学校助成金にて一七〇万円余りかけて、落成から二〇年経った体育館鍛冶の巻き上げ機を修繕いただいたが、今後毎年保守点検が必要とのことであった。相当重いものであり、文化祭等生徒が事故に関わると危険であり、今後も保守点検を続けていかねばならない。

●五階和室襖、障子及び畳修繕

(二四〇、六五一円)



平成三年の校舎落成以来十八年経った和室は併せて四十畳。部活動では茶華部と競技かるた部が使っている。畳もすり減り(かるたがかなり運動部的である)、襖も障子もかなり赤茶けてきていた。手をいれていただいたおかげで、畳の香りのする和の空間が整った。

●チェロ、ヴァイオリン購入、修繕

(二、一五四、六二五円)

本校のオーケストラ部は弦楽台奏で、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスで構成されており、年間の大きな舞台としては十二月の第九演奏会、秋の県総合文化祭、二年に一度の全国総合文化祭、日赤のロビーでのバ



レンタインコンサート、中部養護学校との音楽交流会、バラ展での演奏、そして文化祭などである。

生徒は楽器を大切に扱ってはいるものの、修繕、購入いただき、生徒の練習にもより熱が入っている。

●卓球台三台

(三〇五、五五〇円)



授業での使用はもちろん、卓球部も人数が増え練習にも熱が入っている。しっかりとした台を三台も頂き、おかげで卓球部は県総体ベスト4にて六月の四国総体に出場できることとなった。

●甲子園出場記念教育基金より

●体育館2Fアリーナ床面改修

●アリーナ入口建具修繕

(三、二八二、二九八円)

体育館の床は毎日の体育の授業やバスケット、バレー部、バドミントンの練習等で塗装がはがれ、美観上だけでなく、床材そのものが傷んでしまうと張り替えとなり、莫大な費用がかかることとなる。今回塗装をしていただきぴかぴかの床となり、部活の練習にもプラスになったのかバスケット部男子が県総体で二位となった。

玉翠会会員名簿を発行

昨年七月、五年ごとに作成している会員名簿を発行した。

昨今の個人情報の保護の流れを鑑み、載せる項目を削減するかどうか事前に検討をしたが、従来どおりのスタイルでいくこととした。まず住所等の照会のハガキを会員全員に送付、住所等で不掲載希望の場合はその旨記してもらったこととした。また、不明者は一覧にして情報を求めた。

発行部数は5,919冊。頂戴した広告は326件である。

学校にも販売用を残してあるので、購入(⑤5,000円)希望の場合は高松高校内事務局あて連絡を願いたい。

また、その後の住所等の変更は、その都度事務局まで連絡をいただきたい。

なお、購入者には、個人情報については適切な取り扱いを重ねてお願いしたい。

投稿募集のお知らせ

玉翠会報では次のようなコーナーを設けたいと考えております。

I 「卒業写真」・・・卒業写真とともに懐かしい高校時代を振り返り、その思い出、エピソードなどを綴っていただくコーナーです。写真は集合写真に限らず、どのような写真でも結構です。世代を越えて、会員の皆様方が高松高校の歴史に触れられるような内容にできればと考えています。

II 「文芸欄」・・・会員の皆様方からお寄せいただいた作品を紹介させていただくコーナーです。具体的な内容については未定ですが、随筆、詩、短歌、俳句など、ジャンルは問いません。

また、「あの先生は今」「ただいま活躍中」のコーナーに掲載する方のリクエストもお待ちしております。その他お気づきの点などございましたらお聞かせいただけたらと思います。

宛先は「玉翠会事務局」まで、郵送又はFAX、電子メールでお願いいたします。

新年度(平成21年)会費を受けつけております

年会費 1口 1,000円

同封の「玉翠会費納入用紙」をご利用下さい。

玉翠会費納入にご協力下さい

多数の会員の皆様より会費の納入をいただいております。厚くお礼を申し上げます。

あらためて申すまでもなく会費は玉翠会の運営上貴重な財源であります。財源の安定が急務となっておりますので、会員の皆様方には会費の納入について格別のご協力をお願い致します。また代議員、支部役員、職場の幹事の方々のご援助により納入額の増加に努めたいと考えておりますので何卒よろしくお願い致します。

香川県立高松高等学校玉翠会事務局

〒760-0017 高松市番町3丁目1番1号

電話 (087) 831-7251(代) FAX (087) 831-0010

mail:gyokusui<takakou@mail.netwave.or.jp>